

平成18年1月23日

物流連ニュースリリース

第6回物流効率化委員会を開催

(社)日本物流団体連合会(物流連)は、平成18年1月20日(金)に第6回物流効率化委員会(委員長:日本郵船(株) 平野裕司 特別顧問)を開催いたしました。

第6回委員会の内容は以下のとおりです。

1. 国際コンテナ物流の電子タグ実証実験推進会議について

「我が国の物流事業者にとって電子タグ導入が求められるようになった国際的な背景」と「物流効率化と安全確保の両立に向けての政府の取り組み」を説明し、これらを踏まえて平成16年度に開催した「IT部会の概要」、IT部会において現状の課題とされた事項を平成17年度の実証実験の中で検証する「国際コンテナ物流の電子タグ実証実験推進会議」について、国土交通省港湾局港湾経済課高度化対策係長の伊藤嘉宏氏が説明した。

2. 本年度において物流連が実施等に関わる実証実験について

(1) 中国輸入レーンの概要について

電子タグ等を活用した国際コンテナ物流のセキュリティ強化及び物流効率化に関する検討調査について、中国からの輸入に関する実証実験の内容を社団法人全日本検数協会企画部副部長の松波徳義氏が説明した。

【実証実験の内容】

電子シール、タグの情報管理、制御を行うシステムを構築する。

国際標準になりつつある周波数433MHzを実装した国産電子シール(アクティブタイプ)をコンテナに貼付し、国際コンテナ物流のセキュリティを確保する。CY搬出入、船積・船卸等のポイントにリーダーを設置し、不正開錠等をチェックする。

荷主や物流事業者の観点から、電子タグ・シールを導入することによる物流の効率化について検証する。

電子シールと電子タグが紐付けされた状態でのEPCとuCodeのコード相互変換が可能か検証する。

輸入のコンテナ物流において構築した実証実験システムに係る荷主、物流事業者のコンプライアンスについて現状把握、課題の整理を行った上で対応策の検討を行う。

海外とのトレードレーン、港湾などに電子タグ、シールのシステムを導入し、インフラ整備など実運用に向けた課題の抽出を行い、実導入に向けた検討を行なう。

(2) 庫内作業における電子タグ利用に関する基礎調査について

実証実験場所として現場倉庫を利用した電子タグ利用に関する基礎調査について、株式会社日通総合研究所経済研究部担当部長の大島弘明氏が説明した。

本実証実験においては、製品化が進められているUHF帯の電子タグおよび周辺機器の能力に関する性能実験を行い読取距離などの確認を行うとともに、実際の物流業務の場面を想定した電子タグの読取等に関する基礎実験を行うことにより、電子タグの活用に関する基礎データを収集することを目的としている。

以上

(連絡先) 03-3593-0139
担当 磯貝、谷脇